

2班 平和学習成果発表

2班グループメンバー

- ・ 豊科南中学校 小林 杏由美
- ・ 豊科北中学校 宮原 悠駆
- ・ 穂高東中学校 竹内 悠真
- ・ 三郷中学校 二木 大地
- ・ 堀金中学校 巢山 沙織

松本大学	平和創造研究会	田中 悠斗
松本大学	平和創造研究会	樋口 史弥

グループの学習テーマ

『アメリカ側から見た原爆投下』

- ・グループで設定した学習の着眼点

- ①原爆投下の背景

- ②なぜ広島、小倉、長崎の3つから広島と長崎にきまったのか

- ③アメリカ人の感情（開発者等）

- ④なぜアメリカは兵器研究を進めるのか

見学場所

- ・ 平和記念資料館
- ・ 被爆体験記朗読会
- ・ 平和記念式典
- ・ ひろしま子ども平和の集い
- ・ 巖島神社

見学



学習の着眼点

①原爆投下の背景

- ▶ ソ連に対して力を誇示する目的があった。
- ▶ ソ連の対日参戦を防止するかつ戦後の影響力の拡大を防止する目的で使用に踏み切った。
- ▶ 膨大な費用を使って開発した原爆を国内で正当化するため。

② 『なぜ広島、小倉、長崎の3つから 広島と長崎に決まったのか』

- ▶ 都市の規模や爆風での効果的な損害を与えられる条件をもとに、広島、小倉、長崎を選定した。
- ▶ 目標都市の優先順位は広島→小倉→長崎の順で決められていた。
- ▶ 小倉には捕虜収容所があり、広島にはなかったため、小倉は目標都市から外され広島に決まった。

③ 『アメリカ人の感情（開発者等）』

- ▶ 多くの科学者は、原爆の開発が戦争を早期に終結させるための手段と考えていたが、後にその使用に対して後悔の念を抱く者もいた。
- ▶ アメリカ国内では、多くの命を救ったとする意見が一般的だったが、投下の必要性に疑問を持つ者もいた。

④ 『なぜアメリカは兵器研究を進めるのか』

- ▶ 冷戦で、ソ連との軍事競争が激化し、核兵器やその他破壊兵器の開発と保有が重要視されたため。
- ▶ 他国に対する技術的優位性を維持するため。
- ▶ 核兵器使用の抑止力とするため、現在でも作られている。
- ▶ 近年では、新たな脅威に対応するため研究が進められている。

新たに気づいたこと・発見したこと

- ▶ いま世界中にある核兵器の数が約1万2000発で、今すぐ使うことのできる核兵器の数が約3800発であり、広島に落とされたリトルボーイよりはるかに高性能であるということ。
- ▶ 空襲による火災の延焼を防ぐため、あらかじめ建物を取り壊して防火帯を作る作業に広島市内の中学生が動員されたこと。
- ▶ 原爆投下後、被爆者に対する支援や保険の適用範囲は、爆心地からの距離によって決められていたということ。

感想

- ・学校で行った平和学習とはまた違う、実際に参加して学べたことも多くあり、貴重な経験となったので良かった(竹内悠真)
- ・1人1人が互いを認め合い、共存しようとする姿勢が、いつか平和な世界を実現することにつながると思う。また、貧困や差別、戦争について考えを深め続け、行動に移していきたい。(巢山沙織)
- ・原爆の被害は戦争が終わった後も続く恐ろしいものだなと思った。これからは周りの人に見たり、聞いたりしたことを伝えていきたいと思う。(二木 大地)
- ・行ってみないと分からないような貴重な体験をさせていただきました(宮原悠駆)
- ・広島平和記念学習を通して、学んだことを家族や友達に伝え共有し、平和の尊さや命の重みについて後世につないでいきたいと思いました。(小林杏由美)

ご清聴ありがとうございました